

大村の豊かな自然を生かした生活文化の実現で活性化ができないか
大村発電所の解体でアスベストを飛散させるな

久野議員 (1)農林水産行政について

豊かな有機野菜の安価な供給と販売促進、振興はどうか。

とれたての魚介類が容易に手にはいるような漁業振興、稚魚の育つ藻場や潟の再生とこれ以上減らさない規制はどうか。

子ども達が昆虫や小動物を観察できる里山の現状はどうか。その育成、保存はどうか。

(2)市民環境行政について

ホテルやサンショウオなどをよみがえらせる努力はどうか。

大村発電所の解体工事ですべての飛散から住民を守る法律や環境庁、旧厚生省からどんな通達がでていますか。

アスベストが宅地や田畑に飛散していないかどうかを市で確認できないものか。

煙突のすすや灰にはダイオキシンは存在しないのか。

発電所跡地が市民が心配するような会社に売却される懸念について市の考えはどうか。

市長 (1) 有機農業は国の認証制度で手続が煩雑であり、経費も相当かかる。当然高価格で取引

されない経営が成り立たない。現在、有機農業はありません。

最近では、新城や競艇場で力キまつりとして直売会を実施している。藻場再生促進等を目的に、郡川河口沿岸での海底耕うん工事等も実施している。

自然学習の場として、岳ノ木場公園、すわの森地域等を大いに活用して欲しい。市内の林野は、ほとんど個人所有であるため、育成・保存は個人の意思に委ねられる以外に、公に開放することができない。

(2) 飼育、繁殖について地域の要望があれば、環境アドバイザーなどの講師派遣に努めている。

粉じん飛散防止については、労働安全衛生法、設備撤去工事及び大気保全については、長崎県へ届け出が必要である。

アスベストの検証は、高度の技術を必要とし、検査業者は県内になく、九州内でも数社しかないということであった。

市民環境部長

九州電力で煙突の調査を検査業者に依頼した結果、ダイオキシンはほとんど含まれていないということだった。

市長 適応した健全な企業を誘致することに心を配りたい。

(その他の質問事項)

魚や昆虫などが豊かに生きる環境をとりもどす河川行政について。

”心”の
「オアシス」で
住みよいまちに!!

伊川議員 施政方針について

安全で住みよいまちづくりには「オアシス」運動を具体的に市民運動として展開してはどうか。人間関係を築く基本はまず挨拶から、家庭からと考える。ココロねっこ運動の実践としてもより効果のある取り組みになると考え、提案したい。

中心市街地の活性化について
空店舗対策等、新規事業については具体的にどのようなことを考えているか。また、地域限定の商品券、おおむら商品券の積極的な活用で、まちの活性化や地場産物の育成等につなげては、と思うがどうか。

快適な環境の整備について
公共下水道の認可区域内の未整備地域について、当初の計画より大幅な遅れになっており、今後の予定も示されていないことから、多くの苦情が寄せられている。今後の整備計画はどのようになっているか。また計画の達成ができないようなら、認可区域を変更することは考えられないか。

市長 オアシス運動、非常に世の中を明るくする運動だと思つ

市民運動としてもつと広げていきたい。学校と家庭と地域が一体となったココロねっこ運動、これはまさにオアシス運動と同じことだと思つ。この運動を市民運動として着実に、そして幅広く展開してまいりたい。

まちかど研究室の中に、(仮称)賑わいまちづくりセンターの設置を計画している。子ども、若者が集まってくるようなイベントを毎月1回程度展開し、商店街に足を運んでいただくような誘導策を官民一体となつてやっていきたい。おおむら商品券は、地場の商店、中心市街地はもとより商店街を活性化するには、即効力が一番あると思つ。市職員を初め市民の多くの方に呼びかけた。

今後の下水道整備については、



おおむら商品券